

作物統計調査
令和7年産水稻の収穫量（宮城）

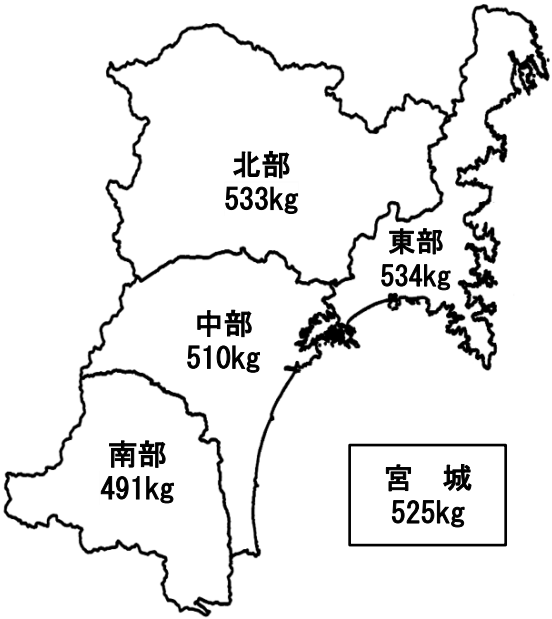
令和7年産主食用米の収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで34万2,800 t（前年に比べ2万1,600 tの増加）。

1 令和7年産水稻の生産者が使用しているふるい目幅ベースの収穫量（主食用）は34万2,800 tで、前年産に比べ2万1,600 t増加となった。

これは、10 a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、田植後の低温により全もみ数が少ないとなったことから、前年産に比べ25kg減少の525kgとなったものの、作付面積（主食用）が前年産に比べ6,900ha増加の6万5,300haとなったためである。

2 作況単収指数は99となった。
各作柄表示地帯の作況単収指数は表のとおりである。

図1 作柄表示地帯別10 a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）



参考
令和7年産水稻のふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）は36万3,100 tで、前年産に比べ2万2,600 t増加となった。

以上の内容について、10月25日現在の公表値から変更なし。

表 令和7年産水稻の作付面積（主食用）、10 a 当たり収量及び収穫量（収穫期）

区 分	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
		10 a 当 たり 収 量 ①	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当 たり 収 量 ②	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む。))	
		ha	kg	%	t	kg	%	
宮 城	65,300	525	95	342,800	556	95	363,100	99
南 部	…	491	96	…	528	96	…	99
中 部	…	510	97	…	540	96	…	101
北 部	…	533	95	…	563	95	…	99
東 部	…	534	96	…	571	97	…	101

注：1 ①10 a 当たり収量は、過去5か年に生産者が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（宮城県は1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 ②10 a 当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10 a 当たり収量の比率である。
4 作柄表示地帯別の作付面積（主食用）、収穫量（主食用（生産者ふるい上米））及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む。））については、新規需要米（飼料用を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を把握していないことから「…」で示した。

- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅（宮城県は1.90mm）で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む。））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10a 当たり収量の比率である。

図2 令和7年産水稻作況標本筆の10a 当たり収量の分布状況（宮城）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）（収穫期）

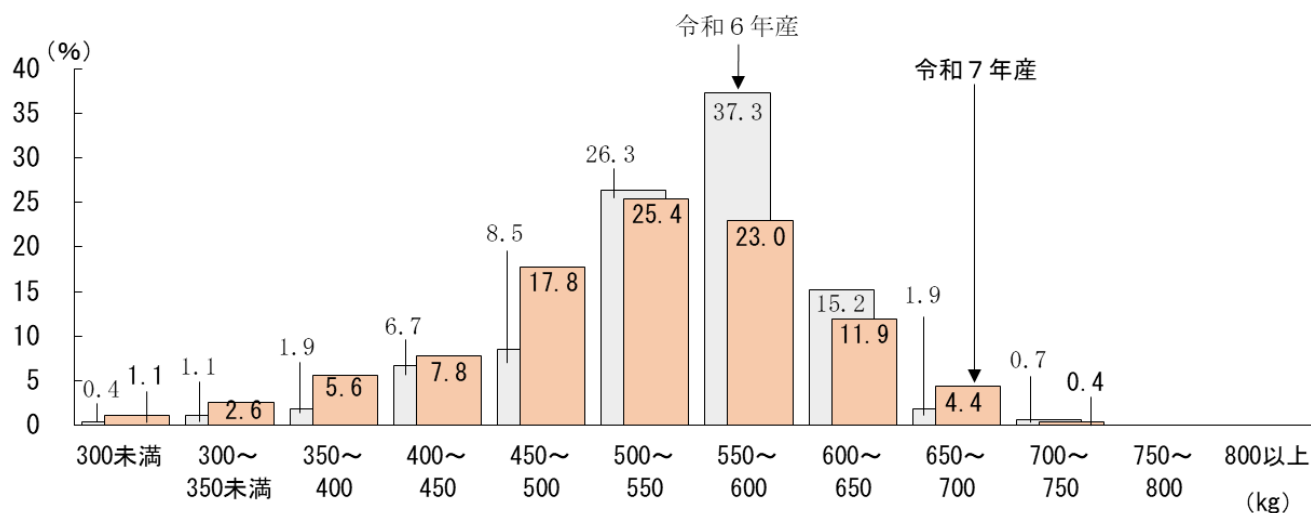
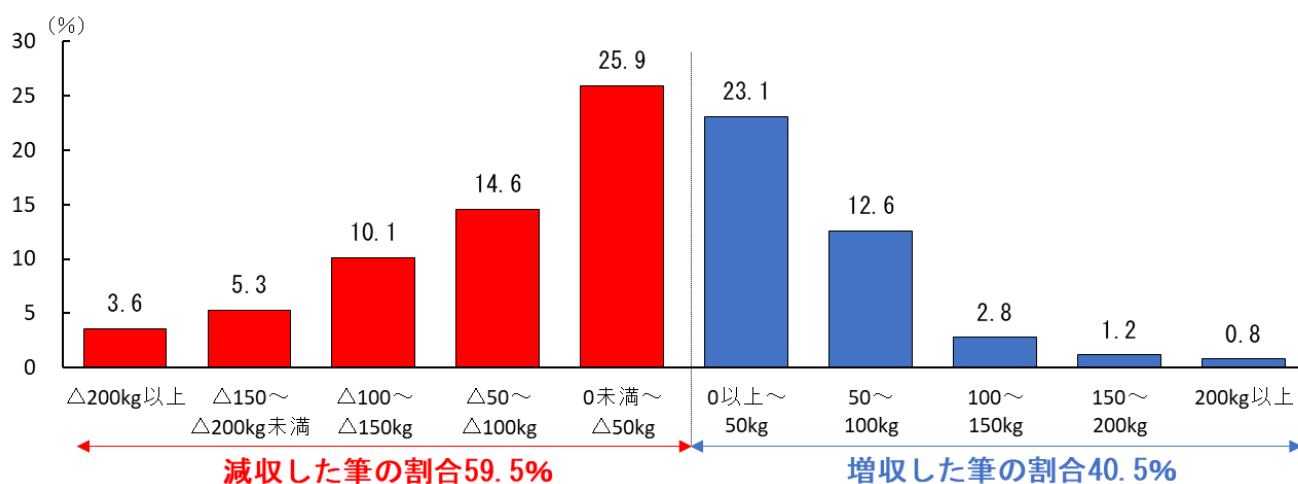


図3 令和7年産水稻作況標本筆の10a 当たり収量の前年差の分布状況（宮城）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）（収穫期）



お問合せ先

東北農政局 統計部 統計調査担当
電話：022-745-9381（直通） 内線 4752